

=私たちの活動 4つの柱=  
 \*制度化と指導員の身分保障  
 \*専門性と仕事の確立  
 \*父母と共に学童保育運動の発展  
 \*全国の指導員との団結と連帯

建交労全国学童保育部会

## ニュース学童保育

2016. 1 2. 5.  
 NO. 8  
 全日本建設交運一般労働組合  
 全国学童保育部会 発行  
 編集：事務局

# 学習を糧に、処遇改善の実現を

### 群馬支部、学習交流会 in磯部温泉

群馬学童保育支部は11月26・27日に磯部温泉にて学習交流会を行い、26日の夕食交流会は、地域の問題や各クラブの悩みを出し合いながら交流を深めました。27日は、長野県上田分会、群馬県本部の組合員さんにも参加していただき、指導員のチームワークについての学習会を行いました。



桐生の山田(正)先生と、山田(敏)先生が自分の働く職場からの報告、そして参加者それぞれが職場でのチームワ

ークを振り返りました。

異なる意見を持つお互いを尊重しながら保育の質をあげていくこと、たくさんの学童保育指導員が繋がっていくことが、組織拡大にもつながることを確認し、改めて意思統一をすることができました。

(群馬 ノ瀬 香緒理)

## 新潟支部が、市・県と交渉

処遇が低く、  
入れ替わり  
多い

10月23日(日)に角田委員長を講師に迎え、処遇改善事業の学習懇談会を行いました。組合員の他、県本部の計らいで、市議会議

員3人もあわせ15人の参加となりました。角田さんから、どうやって処遇を上げるかについてお話がありました。

①新潟の指導員は全国的に見ても年収が低い  
②平成31年までに有資格者を確保すること  
③運営指針で「1年生から6年生までの成長発達を促していく」という職務内容が明らかになった。職員の入れ替わりが多いと子どもは不安定になる。勤続を積み重ねていける職場にする

るため、処遇改善は必須である。

市議からは、10月21日に子ども未来課を訪問した内容について報告されました。

未来課は「ニーズ調査で、18時30分以降までの開設希望は6.3%しかない。時間を延ばして健全育成になるのか」という回答だった。そこで、組合交渉の回答と変わりませんでした。

10日に子ども未来課と社協へ行きました。

市は「待遇の改善は雇用主である社協に言っ

て下さい」という姿勢を崩さず、話を聞くだけならいいですよという態度でした。社協は「処遇改善については市と交渉してほしい、委託料が上がらない限りどうしようもない」との一点張りでした。

15日には県の少子化対策課と懇談する機会がありました。

係長は、処遇改善事業については前向きに検討し、市の担当課にも話をしていきたいという回答をいただきました。

困難な状況ですが、学習したことを確信にし、新潟市の学童保育が少しでも前進するよう、できることをひとつずつ重ねていきたいと思えます。

### 市、社協、 無責任な姿勢

学習会でおさえたポイントをふまえ、11月

(新潟 市村周子)